GAOT
Gunma Association of Occupational Therapists

一般社団法人
群馬県作業療法士会ニュース
「からっ風通信」　第157号　2024年7月発行

巻　頭　言

学会長挨拶
「原点回帰～群馬県の作業療法から学ぶ～」

第26回群馬県作業療法学会
学会長　石森卓矢
（公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院）

第26回群馬県作業療法学会を2024年9月1日（日）に太田医療技術専門学校において開催いたします。テーマは「原点回帰～群馬県の作業療法から学ぶ～」としました。

2019年12月に中国武漢でその端を発した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に全世界に広がり、人々の生活のあらゆる分野で前例のない重い負の影響を与え続け、我々はさまざまな感染対策を行うことを余儀なくされました。作業療法に関する学会のほとんどはWEB方式での学会となり、勤務の都合や子育てなどのプライベートでの都合があっても学会参加しやすい環境が実現し、何より全国の著名な方々の講義が受けやすくなったことに高い評価が得られました。しかし、新型コロナウイルスの脅威もやわらいだ現在、著明な講師の講義は様々な都道府県学会のみならず、サブスクリプション方式の研修会などでも視聴できるため、学会のあるべき姿、特に各都道府県学会の意義が問われるようになってきていると感じています。

今回の学会は、テーマにも掲げさせていただいたように原点回帰し、都道府県士会本来の目的である、身近な作業療法士から経験を聞いたり、技術を習ったりするための「繋がり」をつくることを目的に企画しました。そのため、特別講演では、長きにわたり群馬県における作業療法士の臨床を牽引している平石武士先生にご講演いただきます。ワークショップや企画展示では、群馬県作業療法士会独自の活動や学生向けの就職説明会として各病院・施設の紹介スペースを設けさせていただくことを企画しております。また、群馬県作業療法士会では、地域局として、東毛、北中毛、西毛の3つブロックに分かれ、地域活動を行っております。シンポジウムでは、この各ブロックにおける身体、精神、発達、老年期の領域でご活躍されている先生方より、日頃の取り組みをご紹介いただき、身近な地域の作業療法を学ぶ機会を提供していただく予定となっております。

原点回帰とは言いつつも、シンポジウムや企画・展示などどれも新しく、群馬県内における様々な課題に対する取り組み、さらにはその成果と展望などが活発に議論されることを期待しております。是非とも皆様の多数のご参加をお願い申し上げます。

最後に、当学会の開催にあたり、会場を提供して下さる太田医療技術専門学校の皆様を初め、多くの皆様のご協力、ご支援を賜りますことに心から感謝申し上げますと共に、一人でも多くの方に役立つ学会となることを願って開催のご挨拶とさせて頂きます。

事務局の小窓

第0話　『リラックスと少しのユーモア』

皆さん。こんにちは。本号から、- 事務局の小窓 - というショートエッセイが始まります。

私が事務局に在籍してしばらく経ちますが、ここでの活動は、毎日、多くの珍事に見舞われ刺激的です。会長をはじめ、理事や部員の方々は、基本的に熱心で真面目で仕事も正確ですが、時々トボケて分からないふりをしたりします。やる気に満ちているときもあれば、電池切れているときもあります。とてもユニークです。

これまで一緒に接してきてわかったことは、それぞれ立場や領域などは異なりますが、作業療法士という職業や仕事がとても好きで、大切に扱うという点で皆さん共通しています。今まで、作業療法士を必要とする声があれば、熱心に耳を傾け、協力を惜しまなかったし、逆に作業療法士が不当に扱われた場合は、常に毅然とした対応をしてきました。きっとこれからもそうあり続けることと思います。

事務局での珍事も、理事や部員さんの立ち振る舞いの面白さも、それらの多くは私の個人的な体験として蓄積されるだけで、公に知られることはありません。大変もったいないことだと感じていました。そこで、県士会の活動を事務局から見える景色を通じて、その一端を皆さんにお届けしたいと思いました。そこから見えてくる県士会の姿は、今までの印象と少し違うかもしれません。

準備はいかがでしょうか。深呼吸して少し首も回して、音楽と飲み物があれば尚良い。いつも細やかに神経を張り巡らせている私たちには、リラックスと少しのユーモアが必要です。

くだらなくて右往左往している県士会の日常をお楽しみ頂けたら嬉しいです。

文　事務局長　長谷川明洋

第1話　『Thank you Clarish!』

先日、Zoom のメインアカウントにサインインできないという、実に面倒な事態に陥りました。原因は、アカウントに登録してあるメールアドレスが使えなくなったことでした。

最悪です。理事会や各部会の会議の多くは Zoom を使用しています。そのメインアカウントにサインインできないというのは由々しき問題です。緊急かつ重要案件。

吐き気がしました。

すぐに、サポートセンターに連絡しなければいけませんでしたが、問題が一つありました。Zoom はアメリカの会社だということです。ヘルプセンターのページを見てみますと…「**問い合わせは基本的に英語での対応となります。**」なにやら随分と強気のご様子。

基本的に英語…　嫌すぎる…。

日本支社にはまじで一言いってやりたい。ひと段落したら、会長名で投稿しようと思います。

けれど、今、一番伝えなければならないことは、「アカウントに登録してあるメールアドレスが使えなくなりサインインできなくて困る。メアド変更したいです！」この 1 点です。

どうにか吐き気をこらえながら、「**とにかく、私は助けを必要としている！すぐに連絡が欲しい。**」とどめ

の英文を加えて入力。念をこめて送信。
　メンヘラ全開でいささか不気味な感じがしないでもないですが、この際、仕方ありません。
　翌日返信が届いていました。
「 I'm Clarish, and I will be assisting you today.I understand that you needed assistance with your Zoom account's email address.（クラリスです。今日からお手伝いします。Zoom アカウントのメールアドレスについてのサポートが必要なことは理解しています）」
　Yesssss!!!!!!!　I got it!!　通じた。I love Deepl !
　すぐさま、アカウント情報を確認するための手続きの指示がされました。そしてメールは「あなたを助ける用意がある」という素敵な言葉で締めくくられていたのでした。
人生で一度は言われたいセリフを言われてしまった。嬉しすぎる…。
　その後、4 日間にわたるメール交換の後、メアド変更手続きを終え無事サインインできたのでした。
　クラリスの対応は終始一貫して丁寧で適切でした。プロフェッショナルな仕事は、相手の自尊心を傷つけず、安心させる。とてもシンプルなことです。私たちも日々そのように接していられたらいい。
ミッションクリア。これで県士会の会議はまもられた。

ありがとうクラリス。

　今回の件、冷静になって振り返ってみて、「メアド変更してサインイン出来たっていうだけでなに一つ良いことしてねぇな」、騒ぎ立てた自分がほんと恥ずかしい。厳に慎まなければならないと心を新たにした次第です。
　ただ…ひたむきに頑張ったとしても、「特に価値を生み出さない仕事」って意外と日常にあふれていますよね。だから、大したことしてないのに、自分に酔っている人がいたとしても、そっと見て見ぬふりしておくくらいの優しさが世の中にはあって良いと思いました。

　訳知り顔で、キーボードを叩くのは得意で、悦に入りやすく、Zoom は少し苦手という事務局の日常のお話でした。
次回、『サンドウィッチ』をお届けします

文　事務局長　長谷川明洋

群馬県作業療法士会　令和6年度　第1回理事会　議事録

日　時：2024年5月29日（水）19：00～21：00
会　場：Zoom使用でのリモート会議
参加者：新井、石森、今村、小此木、勝野、木村、高坂、小林、柴田、関根、高橋、都丸、長谷川、山口、山浦、吉岡、李、以上17名（50音順に表記）

Ⅰ.各部議事

1.新井会長

1）日本作業療法士協会総会
5月25日日本作業療法士協会総会に参加した。
村田和香先生が特別表彰を受賞された。
協会員=士会員については、2027年開始予定である。
新コンピューターシステム導入に遅延があり、委託会社より今後の方針について説明があった。
日本作業療法士協会の基本理念が紹介された。
日本作業療法士協会役員選出に候補者クオーター制度が導入される。

2）介護保険における福祉用具の選定の判断基準の見直し
平成16年より見直しされていなかった福祉用具の選定の判断基準の見直しが行われた。
今後福祉用具委員会が中心となって介護支援専門員協会への研修会などを企画してほしい。

2.福祉用具委員会［担当：柴田副会長・石森理事］

1）報告事項

①福祉用具相談支援システムおよび生活行為工夫情報事業の県士会員登録状況
令和6年5月27日時点において、福祉用具相談支援システムの登録者数は48件、相談件数は2件。生活行為工夫情報事業は1件であった。今後メールなどを用いて周知する予定。

②福祉用具関連の研修依頼への対応について
令和6年3月22日伊勢崎地域リハビリテーション広域支援センターにおいて、福祉用具に関する研修会を実施した。
講師は美原記念病院 石森卓矢。

2）審議事項：なし

3.地域局［担当：柴田副会長・今村理事・小此木理事・山浦理］

1）報告事項

①北中毛ブロック支部（小此木理事）
・昭和村包括支援センターの担当者との顔合わせを実施。
・主任者会議は7～8月を予定し、議題は次年度学会依頼、作業療法推進部（配置事業）についてとする。
・次年度学会長は前橋医療の小林芳行先生、会場は前橋医療福祉専門学校を予定。
実行委員長と事務局長については打診中。

②西毛ブロック支部（山浦理事）
・医療介護フェスティバルは地域包括ケアフェスティバル（仮）に変更予定。
会場は未定であり、今年度から対面で実施予定。
作業療法士会としても積極的に協力していく予定でいる。

③東毛ブロック支部（今村理事）
・5月1日桐生市広域支援センターリハネットワーク顔合わせに参加。
・第2回学会実行委員会を5.23に開催した。

④全体
・地域作業療法推進部と合同会議を行った。
・昨年度実施したOT協会からの地域支援事業等への参画の実態調査についての追加アンケートの依頼があった。【医療から地域（在宅）への取り組み促進事業】、【短期集中型サービスの参加促進事業】OT協会が「事例集作成をしたい」とのこと。地域局として依頼する形として、リストアップされている先生にまずはアンケートの回答を依頼する予定。

2）審議事項：なし

4.教育部［担当：勝野理事・今村理事］

1）活動状況

会議：ブロック長会議　　メールで随時審議を実施。
5/22にzoomにてリモート会議実施。

2）報告事項

①令和5年度　現職者共通研修・選択研修・基礎ポイント研修（実施済の報告）
・現職者共通研修「作業療法障害教育概論」
日時：2024/7/8　講師：松本OTR（沼田脳外）
・現職者共通研修「精神障害領域」
日時：未定
講師：米原OTR（上之原）、鈴木OTR（群馬医療）、滝沢OTR（群大病院）、大嶋OTR（ふくる）
・基礎ポイント研修「3Dプリンター×ハンドスプリントの可能性」
日時：2024/8/7
講師：近藤OTR（群馬パース）、射場OTR（鳥取医大）

②令和6年度 新人症例発表会
日時：令和6年7月21日
会場：群馬医療福祉大学での対面開催を予定
統括：吉田OTR（群馬整肢療護園）
発表者：37名（査読希望者0名）
参加者：士会員、学生への案内を開始した。

③その他
・2024年度名簿について
粕川グループ長が作成し、5月中に事務局へ送信予定。
・教育部備品について
第一病院が教育部から退部するため、第一病院に保管してあった備品の保管場所の変更を検討する。
→　現教育部員に各所属施設で備品が保管できる場所があるか確認を依頼する。

2）審議事項：なし

5.地域作業療法推進部［担当：高坂理事・山浦理事・吉岡理事］

1）報告事項

①地域包括ケア推進グループ（山口グループ長）
・令和6年4月12日付で令和6年度群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金が採択された。

・4月17日地域包括ケア推進グループ定例会議を開催し、今年度の研修企画及び人材派遣に関する検討を行った。
・4月23日地域局と合同会議を開催し、真塩部長、高坂理事、山浦理事、山口、笹谷が参加した。
・第3回地域支援事業会議資料に基づき、群馬県士会版のニュースレターを作成しHPに掲載していただいた。
・今年度より新たに4名の部員が加入した。

②認知症支援推進グループ（笹谷グループ長）
・令和6年3月17日付で「令和6年度群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金」に係る協議書の提出を行った。
・令和6年4月16日に県地域福祉課より事業の採択通知を頂いた。
・令和6年4月22日付で「群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金」に係る資料の提出を行った。
・新たに2名の部員が加入した。退部者は5名であった。
・4月8日に第1回目認知症グループ会議を開催した。
・5月10日に第2回目認知症グループ会議を開催した。(研修企画の考案)
・4月28日の「認知症の人と家族の会のつどい」に部員の笹谷と野村が参加した。

③精神科領域推進グループ（米原グループ長）
・5月12日　精神保健福祉協会定期総会へ担当理事高坂が出席した。
・4月27日精神科作業療法の実践に関する意見交換会に高坂、加藤、滝沢、米原が参加した。
・4月30日に第1回精神科領域グループ会議を開催し、今年度の活動内容について検討した。
・今年度よりグループ長が米原浩貴氏(上之原病院)に変更となった。
・新たに4名の部員が加入した。
・現職者選択研修の講師依頼があり、当グループより4名選出した。

④発達支援推進グループ（六本木グループ長）
・4月18日 第1回全体会議を開催した。
・グループ長が小田俊一氏（公立藤岡総合病院）に変更となった。その他の係等についても確認した。年間計画について検討した。
・新たに4名の部員が加入した。退部者は5名であった。
・学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会－実践編－について下記の計画案を確認、計画を進めていく事を確認した。
　日程：2024年11月2日（土）・3日（日）2日間開催　対面式
　会場：群馬パース大学（予定）
　講師：酒井 康年氏、本間 嗣崇氏、吉岡 和哉氏（予定）
・4月26日（金）群馬県教育委員会特別支援教育課へ吉岡理事、小田グループ長、六本木前グループ長の3名で訪問した。特別支援教育課　課長近藤氏、補佐（指導係長）藤生氏、指導主事矢島氏に挨拶を行い、グループ長交替、群馬県特別支援学校機能強化（外部専門家派遣）事業についての意見交換等を行った。
・6月5日第1回定期勉強会「外部専門家派遣事業について」を実施予定である。

2）審議事項

①精神科領域推進グループ
・精神科G　SNS(X、Instagram)アカウント開設について（別添資料）

審議結果：精神科G　SNS(X、Instagram)アカウント開設について承認された。

6.養成校連絡協議会［担当：小林理事・高坂理事］

1）報告事項

①5月8日第1回会議を開催した。
②今年度の臨床実習指導者講習会は9月28日（土）～29日（日）を予定している。

2）審議事項：なし

7.広報部［担当：都丸理事］

1）報告事項

①公益事業グループ（グループ長：中澤）
・5月に広報部会をオンラインにて開催予定、今年度の高校生や小中学生といった若年層へ向けた広報活動についての意見交換を行う。他県士会の取についての意見交換を行う。他県士会の取り組みについても情報収集を行い、参考にしていく。他団体のイベント開催等があれば参加を検討する。

②ニュース編集グループ（グループ長：反町）
・4月号の発行が終了し、次回7月号の発行準備中。掲載記事等ある場合には、7月5日頃までにデータの送付をお願いします。
・次回7月号より、本格的にグループ長が変更となり作業を進めていく。データの送付先が変更になっているので注意していただきたい。
　送付先：介護老人保健施設うららく　大脇ニュース編集G長 daxiezongya@gmail.com

③広報企画グループ（グループ長：金子）
・公益事業Gと合同で活動実施。各部と情報を共有し必要な外部情報の収集とまとめを行う。

2）審議事項

①ぐんま健康協会フェスティバルについて
日本健康文化協会主催の7/21に開催されるぐんま健康フェスティバルにブース出展したい。参加料は25,000円である。ぐんま健康フェスティバルに参加して良いか審議したい。
審議結果：ぐんま健康フェスティバルに参加することが承認された。

8.福利厚生部［担当：小此木理事、勝野理事］

1）報告事項

①優秀学生賞について
各養成校と連携し、各養成校卒業式に合わせて執り行われている。

②オリエンテーションについて
　県学会にて、県士会への入会に向けたスライドショーについて、各部のデータを踏まえて、再度修正した。各部のデータを含め確認していただき、スライドの完成としたい。

2）審議事項：なし

9.学術部［担当：李理事・吉岡理事］

1）報告事項

　これまでご尽力いただいた野口直人　旧グループ長（群馬大学大学院保健学研究科）から、秋山稜登 新グループ

長（群馬大学大学院保健学研究科）に変更となる。
①学術研究グループ（近藤グループ長）
・4月23日に学術部研究グループの勉強会を実施した。
・全国OT学会（高松）、群馬県作業療法学会への抄録登録に向けた月一回の勉強会を7月から実施する予定である。
②学会支援グループ（野口直人グループ長）
・第26回群馬県作業療法学会の運営支援を行った。
③機関誌編集グループ（糸井陽祐グループ長）
・2024年度の機関誌への投稿3編あり。査読業務開始している。
2）審議事項：なし

10.運転と作業療法特設委員会［担当：李理事］

1）報告事項
2024年6月29日（土）にzoomでぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と合同で世話人会を開催する予定。
2）審議事項：なし

11.事務局［担当：長谷川事務局長・石森副事務局長］

1）報告事項
①総会関係について
日時：2024年6月23日(日)　10:00～
会場：群馬大学医学部保健学科 中央棟3F 4番教室
【提案】来年度総会日程について
議案書に決算書を入れる時期の関係で、次年度より6月最終週の日曜日に開催する方向性としていきたい。今後検討する
2）審議事項
①交通費規定の改定について
前回理事会でご提示した行動交通費400円の基本支給の撤廃について
※理由：日当に関する規定を新設したことにより、費用の二重支払いなるため

新旧対照表

新
(3) 交通費として自家用自動車の移動については、1キロに付き10円を支給する。 (4) 公共交通機関の利用を行う場合は、実質の全額を支給する。
旧
(3) 交通費として自家用自動車の移動については、距離0～10キロに付き一回400円、距離10キロ以上は1キロに付き10円を支給する。 (4) 公共交通機関の利用を行う場合は、400円を加えた実質の全額を支給する。

審議結果：交通費規定の改定が承認された。

3）県士会ニュース記事に関する事務局からの投稿について
県士会の活動に関しての記事を定期的に配信していく。
県士会活動に対する理解や協力を求めるための媒体として活用していく。

12.災害対応委員会［担当：関根副会長］

1）報告事項
9月県学会で令和6年能登半島地震の支援についてパネル展示を予定。報告者はJRAT支援を行った4名、JRATロジスティックスで参加した2名、DMATで参加した1名を予定している
2）審議事項：なし

Ⅱ.その他

1.デジタルアクセシビリティアドバイザーについて

（関根副会長）
日本作業療法士協会総会にて、デジタルアクセシビリティアドバイザー（ICT機器などのデジタル機器を障害のある人や高齢者に対して、その困りに合わせて適切にコーディネートし、その利活用をサポートできる知識と技術を認定された人材）として作業療法士が活躍することが報告されていた。

2.群馬県建築士会の懇親会

5/31に開催される群馬県建築士会の懇親会に高坂理事が参加予定。

3.財務について（高橋理事）

今後、高額商品を購入する際は、長谷川事務局長もしくは髙橋理事に相談いただければ、クレジットカードの使用を検討できる。
次回総会の際に、可能な範囲手渡しで令和5年度の行動交通費を渡したい。今後行動交通費支払者のリストを送付するので、手渡しで渡せる方に関しては、行動交通費を引き取っていただきたい。

4.次回理事会

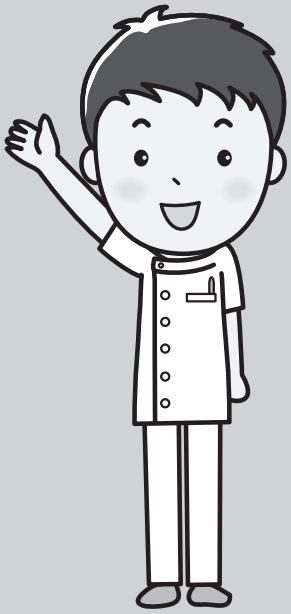
7月23日（水）　19:00～
Zoomにて実施予定とする

施設紹介

恵愛堂病院

当院は赤城山を北西に望む群馬の東端、みどり市大間々町にあります。立地上、みどり市だけでなく、桐生市・前橋市・伊勢崎市周辺地域の広域をフォローする中核病院として、急性期医療にも力を入れ地域医療を推進しています。2020年に「職員にやさしい環境が患者さんにもやさしい環境となる」を設計コンセプトとして新病棟も完成し、急性期一般病棟2病棟：112床、地域包括ケア病棟Ⅰ：56床、回復期リハ病棟Ⅰ：48床、療養病棟：54床の病床数計270床で急性期から維持期までの幅広い患者さんを受け入れています。リハビリテーション課はPT34名OT10名ST3名の計47名在籍しており、脳血管疾患や整形外科疾患、呼吸器疾患、がん患者など幅広い対象疾患に対応しています。リハスタッフは急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟に病棟担当制として配置することで、全病棟で365日リハビリテーションを提供する体制を整えているだけでなく、早期からの速やかなリハビリテーション介入や多職種との連携も積極的に行っています。また、病棟担当制もローテーションとすることで、若手スタッフも各病棟や病期における役割を学ぶことができ、広い視野と経験を重ねていっています。急性期では手術前より介入することも多く、整形外科疾患では術式によってはリハスタッフも手術見学に入り、手術状況を確認しながら医師と今後の治療方針を確認するなど、医師とのコミュニケーションも積極的に行っています。回復期ではコロナ禍を経て、退院に向けての家屋調査や介助指導なども再開し、高齢者の自動車運転再開評価にも他病院と連携を取りながら支援を行っています。当院では、チーム医療にも力を入れており、褥瘡対策チーム、NST、SSTにもリハスタッフがチームメンバーとして参加し、リハビリテーションの知識を様々な場で活かしています。新棟の完成によりフードコートが整備され、サラダ専門店や手巻き寿司専門店、ホスピタルショップが入り、美味しいと評判の恵愛堂カフェでは本格的カフェのドリンク・フードメニューが職員価格で利用できるなど福利厚生の充実や、休みが取りやすく様々なスタッフが働きやすい環境を作るなどワークライフバランスにも力を入れています。また、ロケ協力も受け入れるなど地域が盛り上がることにも貢献し、これからも新しい取り組みを行っていく病院です。

投稿大募集!!



ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や
日常業務で工夫している点、こんな研修会に
参加した･･･などなど、皆様からの投稿を
募集しております。
どんなことでも構いませんので、
お気軽にお寄せ下さい。
お待ちしております!!

ニュース原稿の送付先

daxiezongya@gmail.com

県士会ホームページアドレス

http://www.gunma-ot.org/

編集後記

今号の巻頭言は今年度の学会長である石森先生、また、新たな試みとして掲載したエッセイを事務局長の長谷川先生に執筆して頂きました。ご多忙の所ありがとうございました。

7月号よりニュース編集のグループ長を務めさせて頂くことになりました。未熟な部分が多々あるかと思いますが、皆様により良いものを届けられるよう努めますので引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。　O

群馬県作業療法士会ニュース

発 行 者 ‖ 新井　健五
発 行 所 ‖ 群馬県作業療法士会事務局　〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号　TEL・FAX 027-224-4649
編集代表 ‖ 大脇 宗雅　　編集委員 ‖ 関　仁紀、下田　幸、辻 千鶴子　　印刷 ‖ 星野印刷株式会社